令和8年1月

人権一口講座

大阪・関西万博が教えてくれた「人権」と「多様性」の大切さ

二〇二五年十月一三日、大阪・関西万博が一八四日間の開催を終えて閉幕しました。この万博には、なんと二千五百万人以上の人が訪れました。このイベントは、未来の社会がどうあるべきかを考える場でした。その中でも特に大切にされたのが、「人権」と「多様性（いろいろな違いを認め合うこと）」です。

万博では、障がいのある人やお年寄り、小さな子どもを連れた家族など、誰もが安心して楽しめるように工夫されていました。また、性別や国籍、文化の違いに関係なく、すべての人が尊重されるように配慮されていました。混雑していたときは、大変だったかもしれませんが、それでも「みんなのための場所」となることを目指していたのです。

万博では、気候変動や貧富の差、インターネット時代のプライバシー問題など、今の社会が抱える課題についても話し合われました。新しい技術はとても便利ですが、使い方を間違えると、新しい差別や不公平を生むこともあります。だからこそ、「違いを認め合う心」がますます大切になります。閉会式では「多様でありながら、ひとつ」という言葉が紹介されました。これは、皆違っていても、心はつながっているという意味です。

万博が終わった今、私たちに残された大切な問いかけがあります。それは、「どうすれば、すべての人の人権が守られ、違いを認め合える社会をつくれるか」ということです。未来は、技術だけでなく、人を思いやる気持ちと共にある。それが、大阪・関西万博が私たちに伝えたかったことかもしれません。